

都道府県・ 指定都市番号	2	都道府県・ 指定都市名	青森県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	家庭（専門教科）
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○生徒の主体性を育み、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てるための指導方法及び評価方法についての研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	あおもりけんりつひろさきじつぎょうこうとうがっこう 青森県立弘前実業高等学校（837 人）				
所在地（電話番号）	青森県弘前市中野三丁目 6-10（0172-32-7151）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.hirosaki-bh.asn.ed.jp/				
研究のキーワード	協働的な学習 ポートフォリオ 課題対応能力				
研究結果のポイント	<p>○生徒が将来を見据え、主体的な学びにつなげることができるようにするための体系的・系統的な指導方法について、家庭科学科と服飾デザイン科の両学科の教師が情報を共有したり、意見交換したりするなどして学科間の連携強化に努めることで、カリキュラム・マネジメントを通じた指導の改善・充実を図ることができた。</p> <p>○外部講師による講演と体験活動では、伝統を生かしながら新たな視点を取り入れてものづくりを行うことの重要性を認識し、高校生ならではの感性を生かし、新たな価値を生み出すことへの意欲を喚起することができた。また、本校卒業生を講師としたことで、今の学びと将来の仕事とをつなげる意識付けになった。</p> <p>○生徒による商品・サービスの企画に関する授業では、グループで自由に意見交換ができるようなメンバー構成を工夫したことで、主体的・協働的に活動する姿や、消費者の視点からだけではなく、生産者や事業者側の視点からの発言が出るなど、生徒の意識や行動の変容を確認することができた。</p>				

1 研究主題等

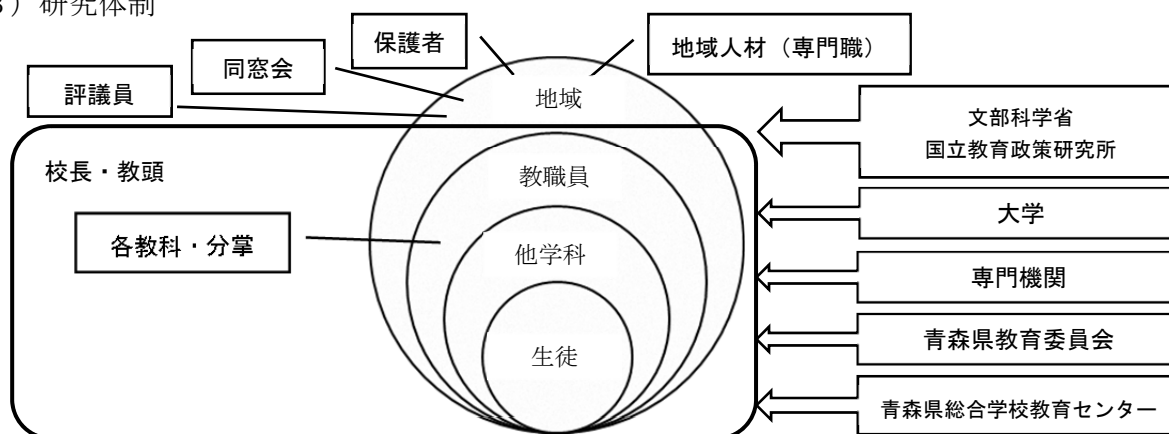
（1）研究主題

生活産業を担う職業人として必要な資質・能力を明確にした指導方法及び評価方法に関する研究

（2）研究主題設定の理由

本校の家庭に関する学科に在籍する生徒は、家庭科学科、服飾デザイン科ともに、専門科目に対する意欲が高い。それは、両学科がこれまでの伝統と実践に基づき、それぞれの目標を達成するために特色を生かした教育活動を展開してきたからといえる。しかしながら、両学科が地域に根ざし特色ある学科としてさらに発展していくためには、生徒の実態や、地域のニーズを的確に把握し検証するとともに、学科相互の連携をより一層工夫する必要があると考える。そこで、これらの現状を踏まえ、両学科が共通に履修する原則履修科目「生活産業基礎」を中心に、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした指導方法や評価方法を研究するとともに、カリキュラム・マネジメントを通じた改善・充実を図ることで、学校全体はもとより、地域の活性化にもつながると考え、本研究の主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成 30 年度	<p>【1学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本校の目指すべき生徒像と家庭科において身に付けさせたい資質・能力の検討 ○資質・能力を意識した指導体系図の作成に向けて、学科間や教員間の連携強化のための取組を検討 <p>【2学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本校卒業生による講演及び体験活動 講師：イエティワールド株式会社 代表取締役社長 山端家昌 氏 内容：講演「商品の企画・開発に関すること」 体験活動「こぎんデザイン講座～紙を使ってこぎん模様を身近に～」 ○生活産業基礎の単元「生活の変化に対応した商品・サービスの提供」において、生徒による商品・サービスの企画実施 ○担当教科調査官訪問 <p>【3学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○岐阜県立大垣桜高等学校への視察 ○1年次の研究活動の振り返り，研究のまとめ及び次年度の計画を作成 ○1年次報告（2月協議会）に参加
----------------	--

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- 本校の目指すべき生徒像と家庭科において身に付けさせたい資質・能力を明確にした，指導方法の工夫・改善について2学科で検討し，可視化する。
- 資質・能力を意識した指導体系図の作成に向けて教員同士の連携強化を図るため，情報共有の時間を設定する。
- 生徒が「生活産業基礎」の学習を通して，職業人に求められる資質・能力及び役割に気付き，専門科目の学習と関連付けて考えることができるようになることを目的として，外部講師による講演及び体験活動を実施する。
- 生活産業基礎の単元「生活の変化に対応した商品・サービスの提供」において，生徒による商品・サービスの企画を実施する。

(2) 具体的な研究活動

- 本校の目指すべき生徒像と家庭科において身に付けさせたい資質・能力の検討
 生徒の実態を把握するために家庭科学科及び服飾デザイン科1～3年生を対象にアンケート

トを行った。項目については、職業人として必要な資質・能力を育むためには、キャリア教育との関連を図る必要があると考え、「高等学校キャリア教育の手引き」（平成23年11月文部科学省）を参考にアンケートを実施した。

○資質・能力を意識した指導体系図の作成に向けた教員同士の連携を図るための工夫

指導体系図を作成するため、これまでや現在の担当科目において「特に意識して指導していること」や「身に付けさせたい資質・能力」を洗い出し、マトリックスとしてまとめた。また、生徒へのアンケートを学年別、学科別や項目別等で比較できるように結果をまとめた。これらを教科内で共有し、今後、生徒に身に付けさせたい資質・能力をどの専門科目と関連付けるかについて検討していく資料とした。

○外部講師による講演及び体験活動

外部講師として本校卒業生でもあるグラフィックデザイナーの方を招聘し、「商品・サービスの企画・開発」に関する講演及び体験活動を行った。講演及び体験活動は、「生活産業基礎」が家庭科学科、服飾デザイン科で共通して履修する科目であることを生徒に意識してもらうために、2学科合同で行った。事前に、体験活動の内容について、青森県の伝統工芸である「津軽こぎん刺し」の様子が印刷された用紙を使い、既存のパッケージや袋にアレンジを加える作品製作であることを伝えるとともに、参考作品を提示して、作品づくりへの意欲の喚起へとつなげることができた。製作後、「作品紹介カード」を作成し、相互評価を行った。

○生徒による商品・サービスの企画に関する授業

職業人としての意識を醸成する上で、課題対応能力及びキャリアプランニング能力の向上が必要と考え、単元「生活の変化に対応した商品・サービスの提供」において、小グループによる調査、発表等を行うなど、指導の過程の質的改善に努めた。服飾デザイン科では、高校生の視点から消費者ニーズを捉えるために、身近な題材として自分のお気に入りのボトムス（以下、パンツ）を取り上げ、消費者の購買意欲を高める店舗設計や販売促進のための広告の工夫等、企業側の取組も含めて、商品分析を行った。分析結果を基に自分たちが着用したいパンツを考案し、さらにファッションアドバイザーになったつもりで、そのパンツに合わせたトップスを考え、トータルコーディネート提案につなげて発表を行った。家庭科学科では、クラスメイトをターゲットとした商品・サービスの企画・開発の実践を行った。各グループでターゲットのニーズを把握し、グループで考案した企画等を実現させるための情報収集や試作を繰り返し行い、企画の実践、発表につなげた。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

○アンケート結果から、学年が上がるにつれて「学ぶこと・働くことの意義」、「今、学校で学んでいることと自分の将来へのつながり」、「将来設計」等、キャリアプランニングに関する能力が高くなる傾向が見られた。この結果から、1年生で「生活産業基礎」を通して職業人に必要な資質・能力とは何かを具体的に提示したことは、生徒にとっては、自分の将来を見据えた主体的な学びへとつながり、また、教師にとっては、体系的・系統的な指導を意識することで、指導の改善・充実につながることを確認できた。

●各科目で意識して指導していることや身に付けさせたい資質・能力については、マトリックスに示すことで、教員同士で共有することができたが、その資質・能力をどの単元あるいは教材と結び付けて体系的に指導するかについては、今後も更に検討が必要である。

○外部講師による講演では、青森県の伝統工芸である「津軽こぎん刺し」を基にデザインした商品の企画・開発を知ることで、自分たちが暮らす地域の産業について改めて理解を深めることができ、さらに、伝統を生かしながらも新たな視点を取り入れてものづくりを行う創造性を育むこと

ができた。また、自分たちが在籍している学科の卒業生を講師としたことで、今の学びが将来の仕事とどのようなつながりがあるのかを考えることができた。

- 外部講師による体験活動後、製作した互いの作品を評価し合いながら、様々なアレンジ方法を見ることで発想力の育成につなげることができた。
- 生徒が作品製作を通して学んだことを生かし、地域の伝統産業の新たな可能性の提案ができるようになるとともに、地域の活性化につながるような交流の在り方を工夫する必要がある。
- 服飾デザイン科で行った商品分析についてのグループ活動では、自分たちが持ち寄ったハーフパンツの表示や縫製の仕方等を比較し、消費者の視点で衣服を分析することで、より質の高い衣服となるための条件を考えることができ、他の専門科目を学習する際の動機付けにつなげることができた。特に、「ファッション造形基礎」で身に付けたハーフパンツの縫製技術を基に、既製品を客観的に評価することができた。
- トータルコーディネート提案では、既製服の分析を基にした意見を出し合いながら、協働してデザイン画を描く姿が見られた。
- 商品分析を通して、衣服が消費者の手に届くまでに関わる職業についても触れることで、今の学びが将来の職業につながることを、そして自分が目指す職業人になるための行動を起こす動機付けになった。
- 発表の際、生徒の戸惑う様子が見られたため、自分の考えを効果的に表現するための事前指導が必要であった。
- 発表後に互いの発表を評価するための評価表を作成したが、3段階の他己評価のみであったため、ほとんどの生徒が中間の評価をつけていた。今後の指導に生かすためにも評価項目の数や自己評価も加えた評価表にする等の工夫が必要である。
- 活発な話し合いができるような助言や考えを引き出すための発問の工夫が必要である。
- 家庭科学科で行った商品・サービスの企画・開発の実践では、単に企画を実施し成果物等で評価するだけでなく、グループに企画実施までの資料を整理するためのファイルを持たせてポートフォリオを作成することで、実施に向けた活動の振り返りがしやすく、見直しをもって学習に取り組むことができた。さらに、実施後のアンケートによる他己評価によって自ら改善点を把握し、課題対応能力の育成につなげることができた。
- グループ学習の際に、自由に意見を交換できるようなメンバー構成を工夫したことで情報収集や話し合いを活発に行うことができた。また、よりよい企画にするために放課後にも試作や準備作業をするなど、主体的・協働的に活動する生徒の意識や行動の変容が見られた。
- 生徒の主体性を促すために企画実施中の助言を最小限にとどめる工夫が必要である。
- 自分たちの企画を生活産業とどのように関連付けることができるかを考える場面の設定が必要である。
- 生徒が自らの学びを振り返るとともに、意識や行動の変容を把握し評価に生かすために、グループだけでなく個人のポートフォリオの作成に取り組む必要がある。

4 今後の取組

- ・「生活産業基礎」及び「課題研究」において、評価方法の工夫・改善に取り組む。
- ・専門科目の学習における資質・能力を意識した指導体系図の作成を行い、系統性を意識した指導方法を工夫する。
- ・学科、学年間の連携を図るために、教科等横断的な視点からの指導方法を工夫する。